

養老町農業振興地域整備計画に関する  
アンケート調査結果について

令和5年3月

養 老 町

# 目 次

## 1 調査の概要

|     |        |   |
|-----|--------|---|
| 1-1 | 調査の目的  | 1 |
| 1-2 | 調査の設計  | 1 |
| 1-3 | 回収結果   | 1 |
| 1-4 | 報告書の見方 | 1 |

## 2 調査結果の分析

|     |               |   |
|-----|---------------|---|
| 2-1 | あなたのことについて    | 2 |
| 2-2 | 農業について        | 5 |
| 2-3 | 耕作地または所有地について | 6 |
| 2-4 | 農業振興について      | 8 |

# 1 調査の概要

## 1-1 調査の目的

養老町農業振興地域整備計画の見直しを行う基礎資料として、農業振興の目的である優良農地の確保や今後の農業施策の検討資料と併せて、農業者が抱える問題や事業に対する要望などを把握するために、アンケート調査を実施しました。

## 1-2 調査の設計

- (1) 調査の対象者 養老町住民基本台帳に登録されている経営農地 50a 以上の農家 1,832 戸
- (2) 配布回収方法 配布・回答ともに郵送で実施
- (3) 調査時期 令和 4 年 10 月 1 日(土)から令和 4 年 10 月 31 日(月)まで
- (4) 調査項目
  - ①あなたのことについて
  - ②農業について
  - ③耕作地または所有地について
  - ④農業振興について

## 1-3 回収結果

回収数 : 1,196 戸 (回収率 65%)

|          |         |
|----------|---------|
| アンケート配布数 | 1,832 戸 |
| アンケート回収数 | 1,196 戸 |
| 回収率      | 65%     |

## 1-4 報告書の見方

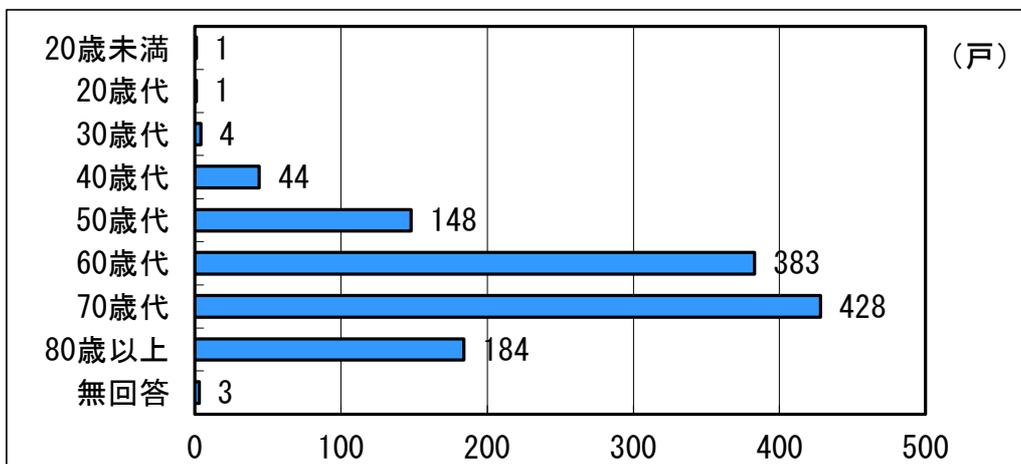
比率は、すべて% (パーセンテージ) で表し、小数点以下第 1 位を四捨五入して算出しました。そのため合計が 100%にならないことがあります。

また、本報告書の表・グラフ等の見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して記載している場合があります。

## 2 調査結果の分析

### 2-1 あなたのことについて

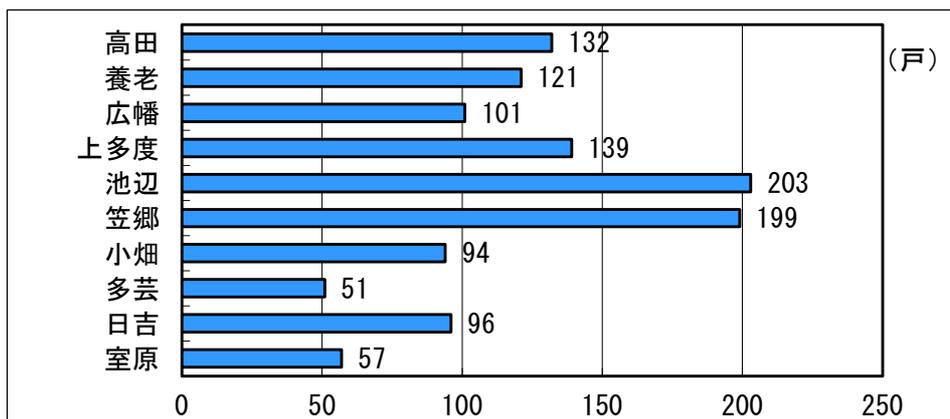
#### あなたの年齢は？



回答者の年齢は、40歳代以下が50戸（4%）、50歳代が148戸（12%）、60歳代が383戸（32%）、70歳代が428戸（36%）、80歳以上が184戸（15%）となっています。

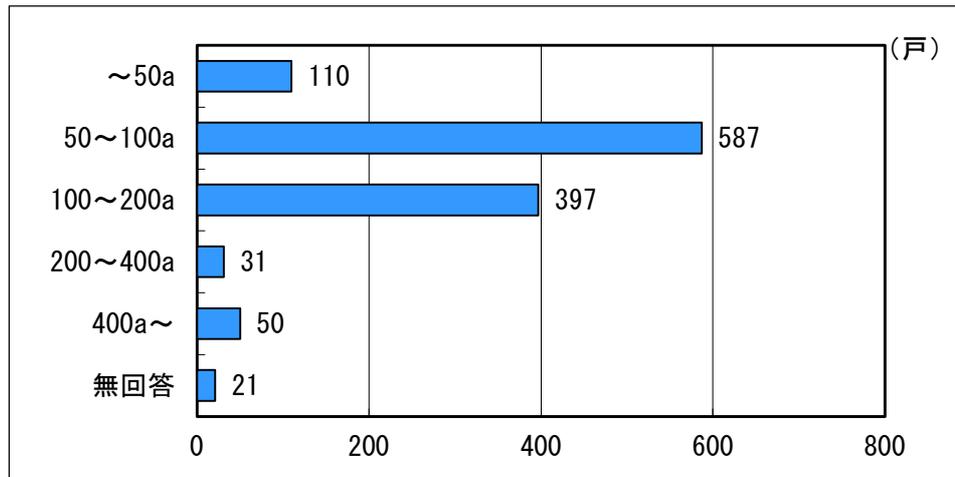
70歳代以上が回答者の半数以上の612戸（51%）であり、農家の高齢化が顕著となっています。

#### あなたのお住まいは？



回答者の住まいは、「高田」は132戸（11%）、「養老」は121戸（10%）、「広幡」は101戸（8%）、「上多渡」は139戸（12%）、「池辺」は203戸（17%）、「笠郷」は199戸（17%）、「小畑」は94戸（8%）、「多芸」は51戸（4%）、「日吉」は96戸（8%）、「室原」は57戸（5%）となりました。

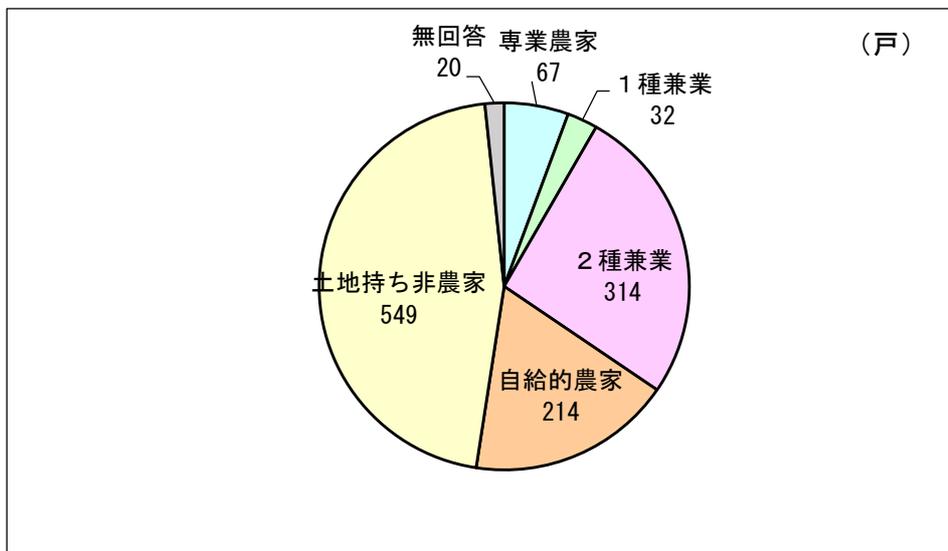
あなたの農地の規模は？



回答者の現在の農地の規模は、「50～100a」が587戸（49%）で最も多く、次いで「100～200a」が397戸（33%）、「50a未満」は110戸（9%）となりました。

一方、「200～400a」は31戸（3%）で、「400a以上」は50戸（4%）であり、回答者の9割以上が200a未満の農地の規模となりました。

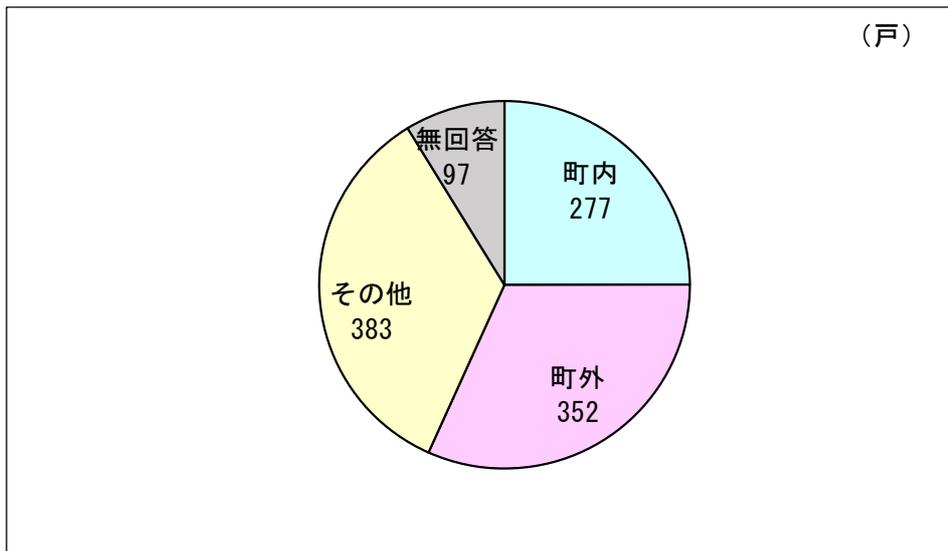
あなたの農家種別は？



回答者の農家種別は、「土地持ち非農家」が549戸（46%）で回答者の半数近くを占めており、次いで農業収入が農業以外の収入より少ない「第2種兼業農家」が314戸（26%）、自給的農家が214戸（18%）となりました。

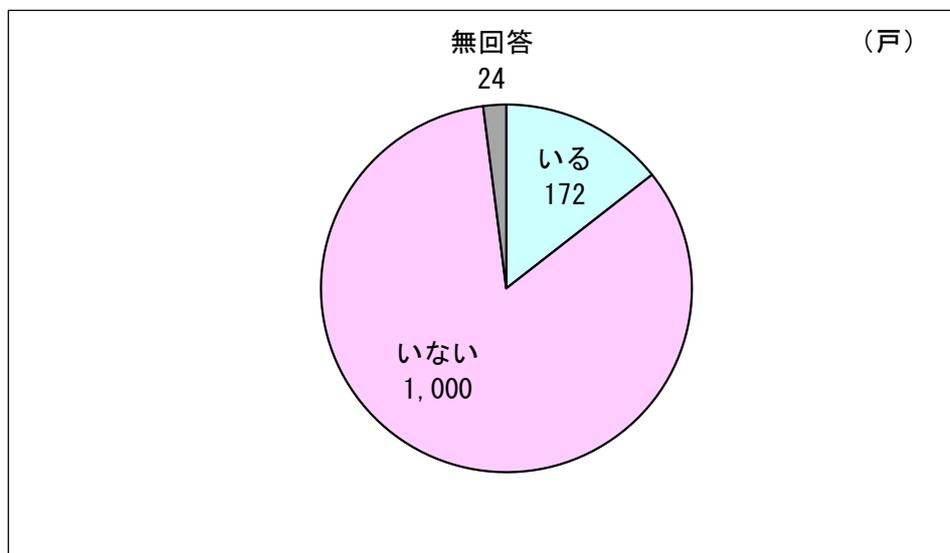
一方、農業収入のみの「専業農家」が67戸（6%）であり、農業収入が農業以外の収入より多い「第1種兼業農家」は32戸（3%）となりました。

あなたの農業以外の勤め先は？



上記の質問で「専業農家」以外を回答した回答者の農業以外の勤め先は、「町内」が 277 戸 (25%) で、町外は 352 戸 (32%)、その他が 383 戸 (35%) となりました。

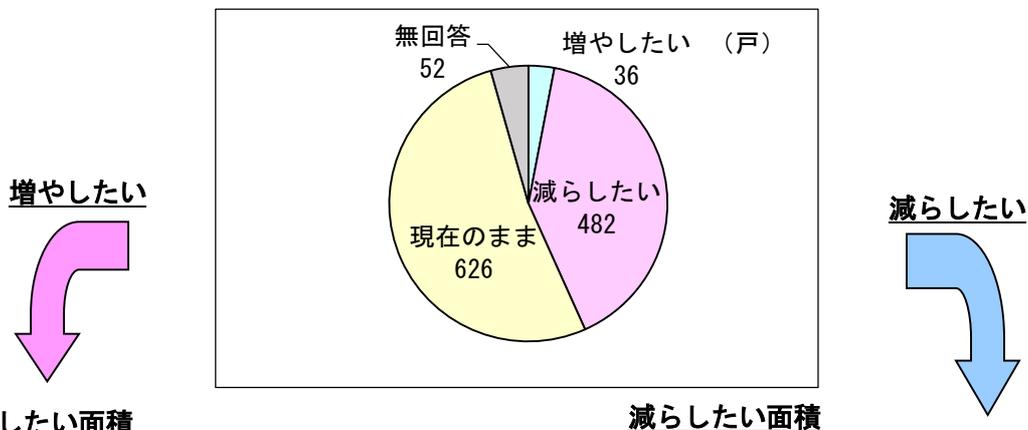
農業の後継者はいますか？



農業後継者（後継ぎ）は、「いる」と回答した世帯は 172 戸 (14%) であり、「いない」と回答した世帯は 1,000 戸 (84%) であり、回答者の 8 割以上が農業の後継者がいない結果となりました。

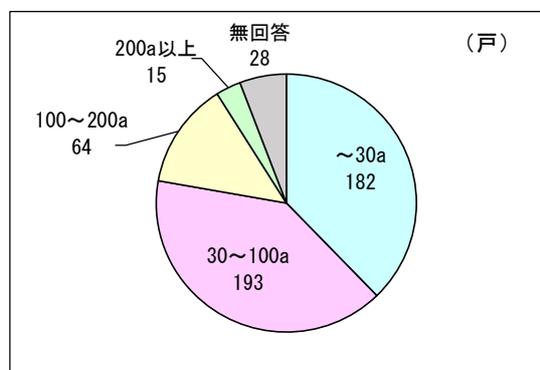
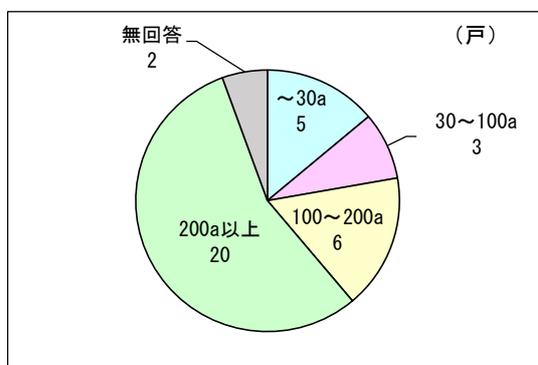
## 2-2 農業について

あなたの将来の農業経営面積は？



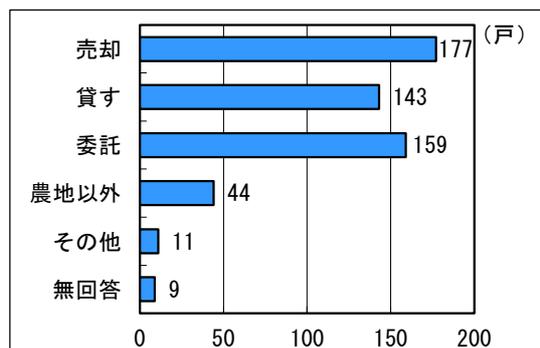
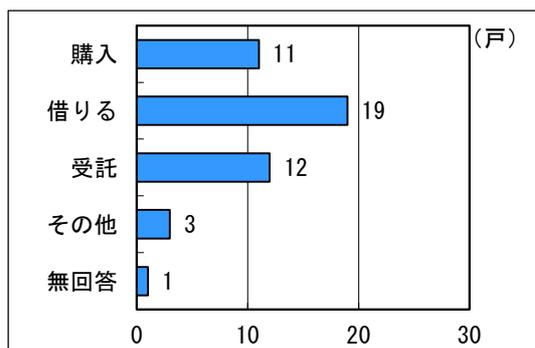
増やしたい面積

減らしたい面積



その方法

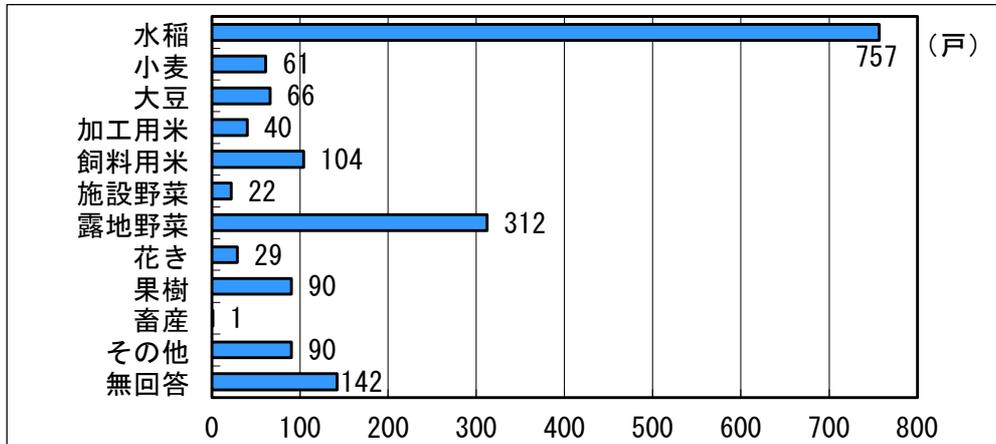
その方法



回答者の将来の農業経営面積は、「現在のまま」が626戸(52%)で最も多く、次いで「減らしたい」が482戸(40%)、「増やしたい」が36戸(3%)となりました。将来の農業経営面積を「増やしたい」と回答した36戸のうち、「200a以上」増やしたいと回答した世帯は20戸(56%)であり、200a以上のまとまった規模拡大の意向が最も多くなっています。一方で、将来の農業経営面積を「減らしたい」と回答した482戸のうち、「30~100a」減らしたいと回答した世帯は193戸(40%)であり、30~100a程度の比較的小規模な縮小の意向が最も多くなっています。また、規模拡大を図る方法は「借りる(利用権設定など)」が19戸(41%)で最も多く、規模縮小を図る方法は「売却(農地を売る)」が177戸(33%)で最も多くなっています。

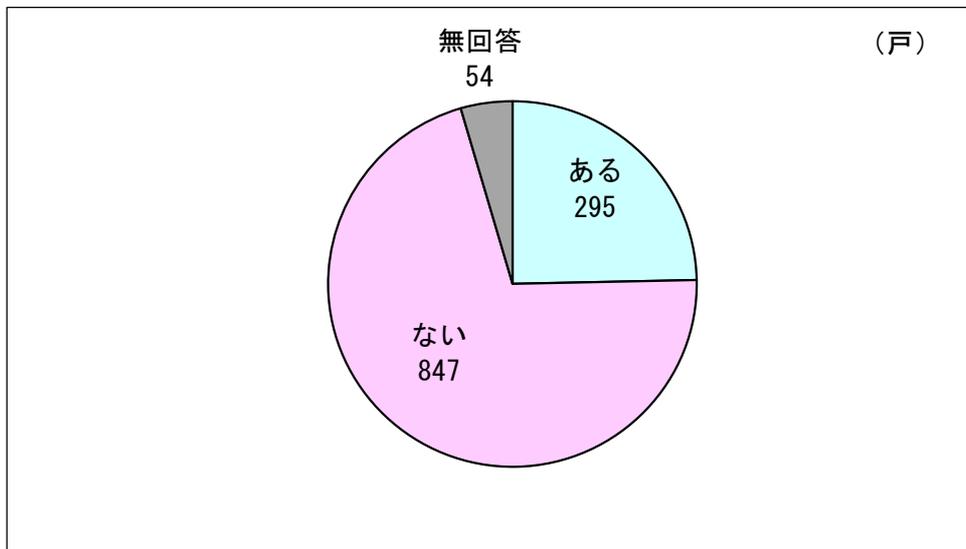
## 2-3 耕作地または所有地について

あなたが主として耕作している作物は？



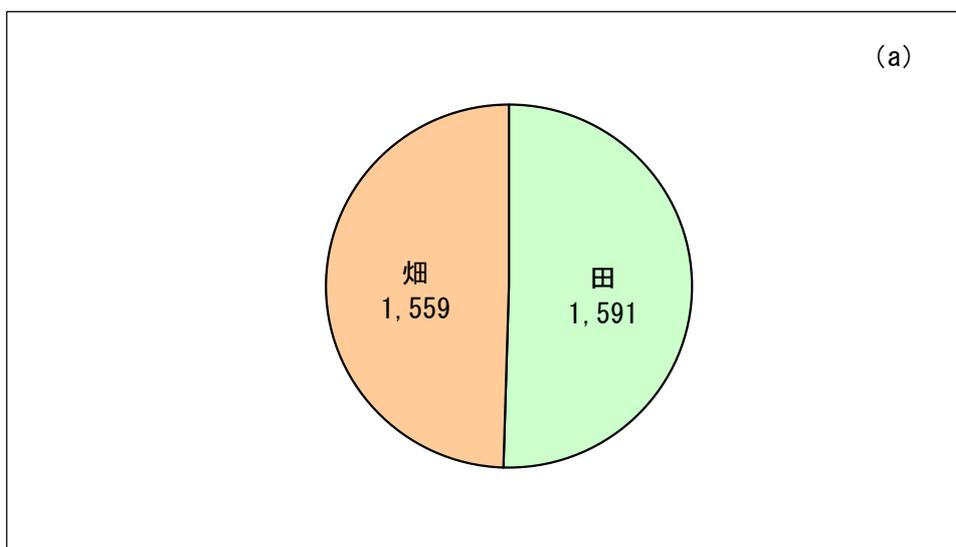
回答者の主として耕作している作物は、「水稻」が 757 戸（44%、複数回答含む）で最も多く、次いで露地野菜が 312 戸（18%、同）、飼料用米が 104 戸（6%、同）となり、水稻を中心とした作付けの傾向が見られました。

あなたの農地の耕作放棄地は？



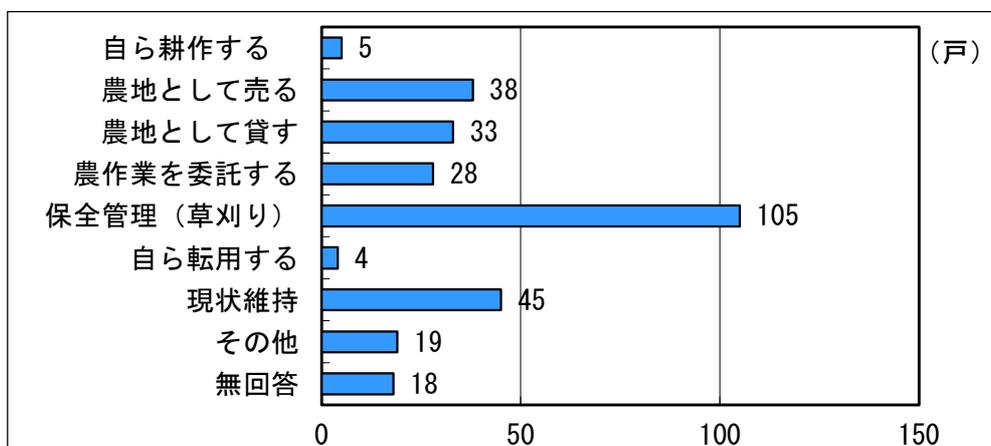
回答者の耕作放棄地は、「ある」と回答した世帯が 295 戸（25%）であり、「ない」と回答した世帯が 847 戸（71%）であり、回答者の 2 割程度の農地で耕作放棄地が見られる傾向になりました。

耕作放棄地の内訳は？



耕作放棄地が「ある」と回答した回答者の耕作放棄地の内訳は、「田」の地目が1,591a (50%)で、「畑」の地目が1,559a (50%)となりました。

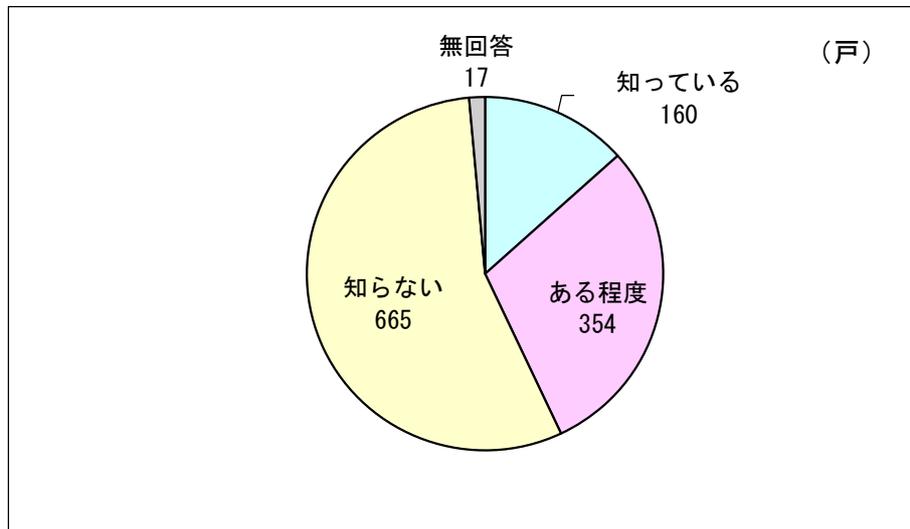
あなたは今後、耕作放棄地をどうされますか？



耕作放棄地が「ある」と回答した回答者の今後の耕作放棄地の扱いは、「保全管理（草刈り）」が105戸（36%）で最も多く、次いで「現状維持」が45戸（15%）、「農地として売る」が38戸（13%）となり、回答者の半数近くが保全管理や現状維持により今の状態を維持する傾向になりました。

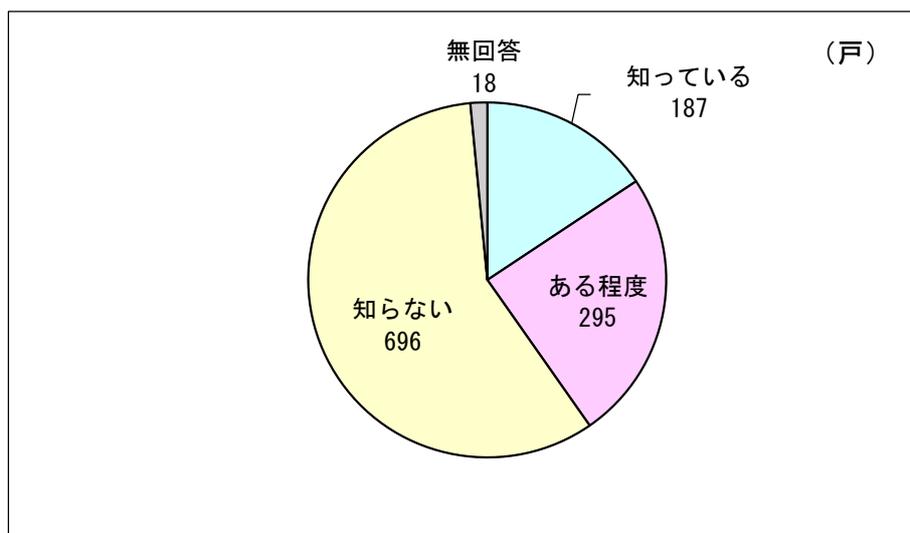
## 2-4 農業振興について

あなたは農業振興地域制度を知っていますか？



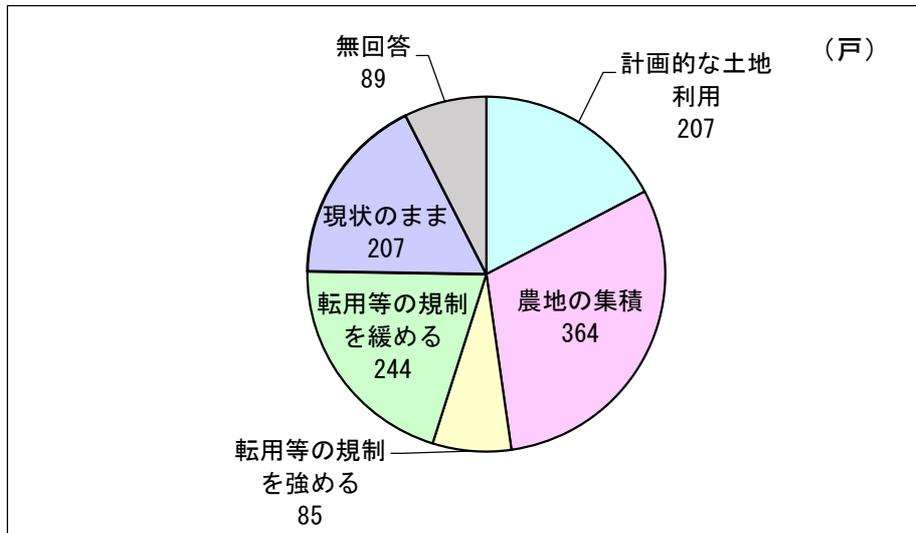
農業振興地域制度について、「知っている」と回答した世帯は160戸（13%）であり、「ある程度知っている」と回答した世帯は354戸、（30%）「知らない」と回答した世帯は665戸（56%）となりました。

あなたの所有する農地が農用地区域に含まれるか知っていますか？



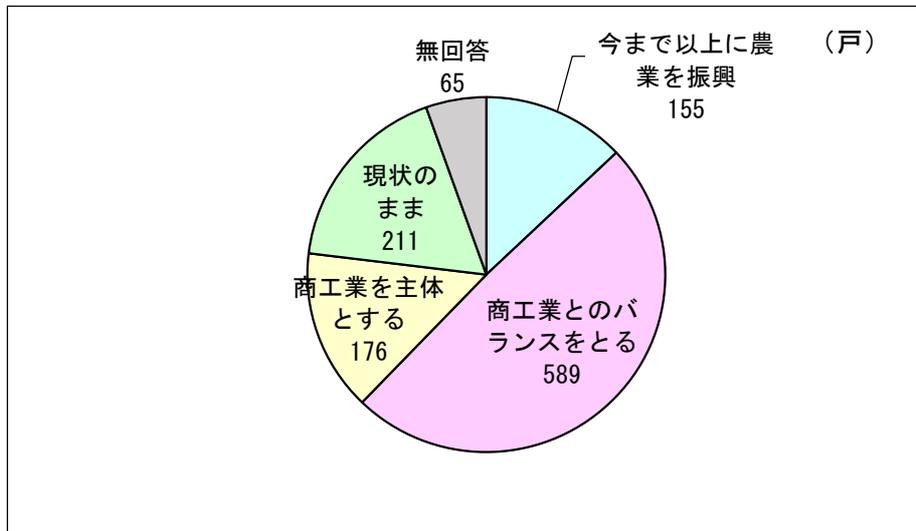
回答者の所有する農地が農用地区域（生産性の高い農地等の理由から農業上の利用に限定されている農地）に含まれることを知っているか、について質問した結果、「知っている」と回答した世帯は187戸（16%）であり、「ある程度知っている」と回答した世帯は295戸（25%）、「知らない」と回答した世帯は696戸（58%）となりました。

あなたは農用地区域内農地をどのように保全しますか？



農業振興地域内の農用地区域内農地の保全について、「担い手への農地の集積を図る」と回答した世帯は364戸（30%）であり、次いで「農地転用や開発等の規制を緩める」と回答した世帯は244戸（20%）、「計画的な土地利用を図る」と回答した世帯は207戸（17%）、「現状のままでよい」と回答した世帯は207戸（17%）となりました。

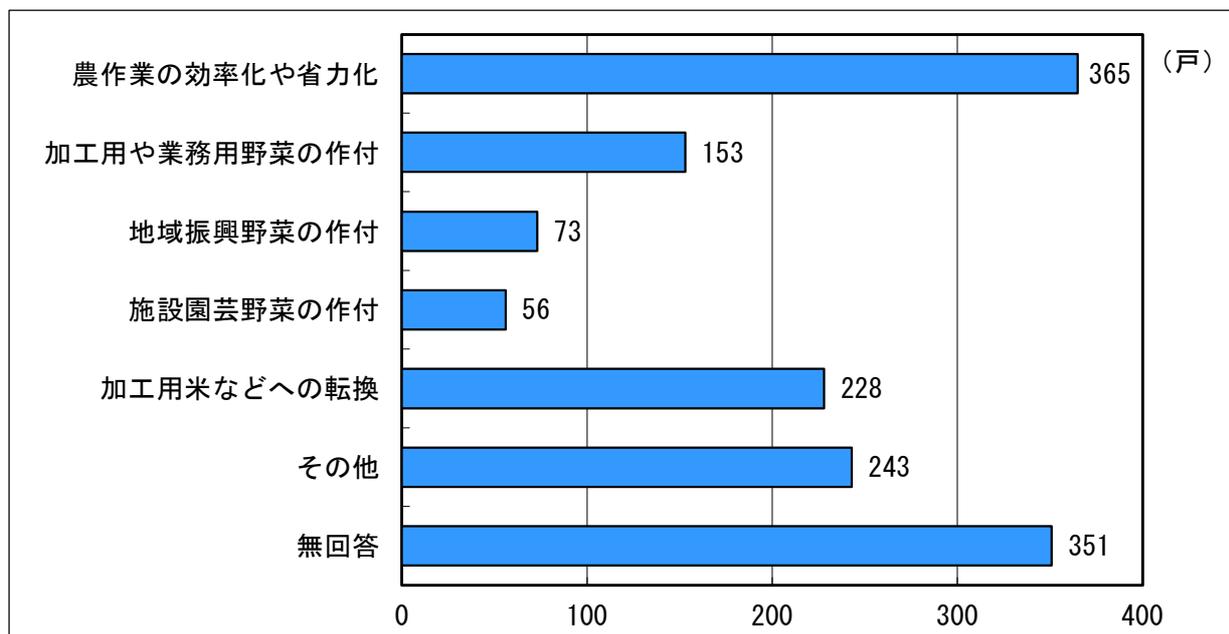
養老町の農業振興はどうあるべきだと思いますか？



養老町の農業振興について、「商工業とバランスをとりながら、農業振興を図るべき」と回答した世帯は589戸（49%）で半数近くを占めており、次いで「現状のままでよい」と回答した世帯は211戸（18%）、「農業よりも商工業を主体とする産業振興を図るべき」と回答した世帯は176戸（15%）、「農業は町の重要な産業なので、今まで以上に農業を振興するべき」と回答した世帯は155戸（13%）となりました。

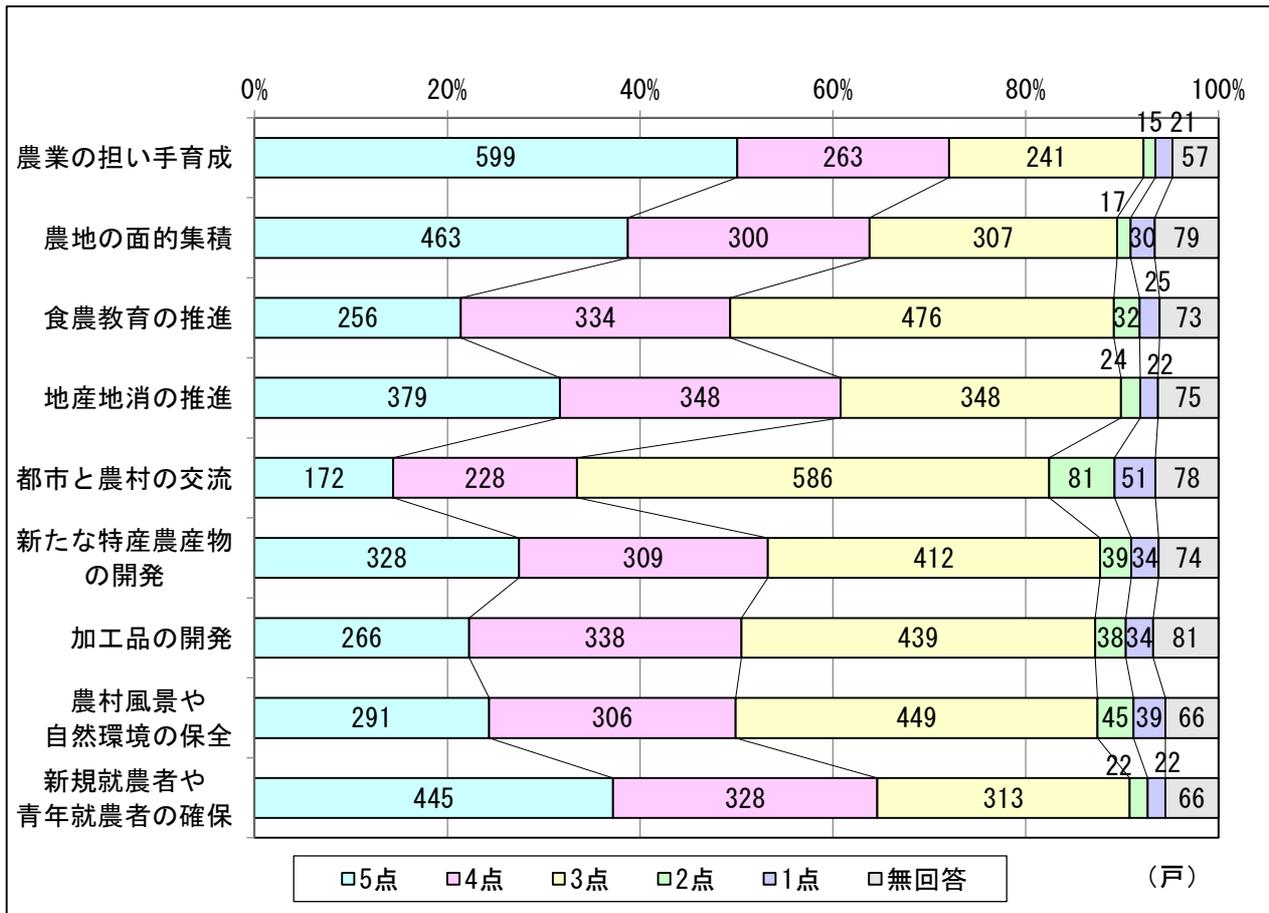
商工業とのバランスをとりつつ農業振興も維持する意見が多い傾向がみられました。

養老町の農業振興の取り組みの中で、あなたが取り組みたい、または取り組んでいる項目は？



養老町で振興している農業の取り組みの中で、回答者が取り組みたい、取り組んでいる項目は、「スマート農業技術の導入による農作業の効率化や省力化」が 365 戸（25%、複数回答含む）で、次いで「主食用米から飼料用米、加工用米などへの転換」が 228 戸（16%、同）、「キャベツ、たまねぎ、ジャガイモなどの加工用や業務用野菜の作付」が 153 戸（10%、同）となりました。

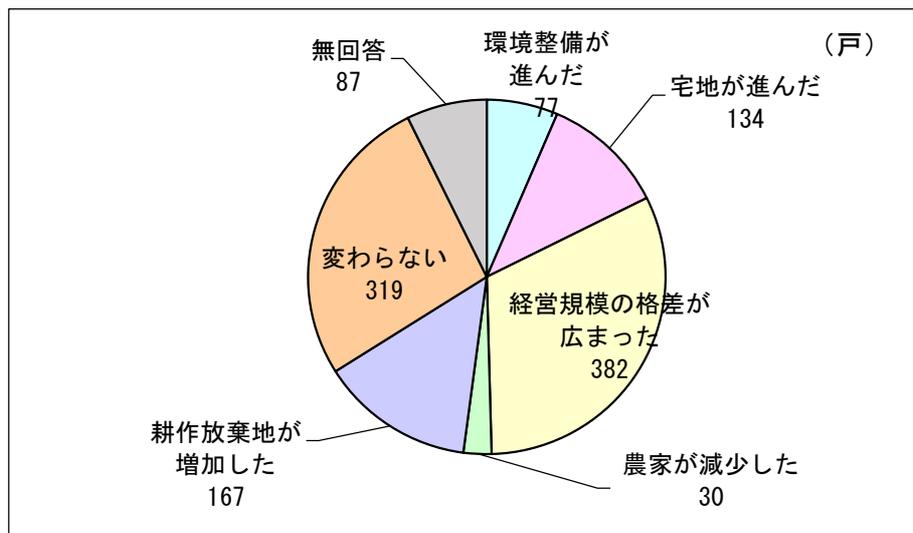
養老町の農業を振興する上で、あなたが重要だと思うことは何ですか？



養老町の農業の振興で重要だと思うことについて質問した結果、「農業の担い手育成」が重要（5点）であると回答した世帯が最も多く、1,196戸の半数近くの599戸となりました。次いで、「農地の面的集積」が重要（5点）と回答した世帯は455戸、「新規就農者や青年就農者の確保」と回答した世帯は445戸となりました。一方、「都市と農村の交流」は、どちらでもない（3点）と回答した世帯が最も多く586戸となり、次いで「食育教育の推進」はどちらでもない（3点）と回答した世帯が476戸となりました。

養老町の農業振興においては、担い手や農地集積に関する取組が重要視される傾向がみられました。

あなたの住んでいる地域は10年前と比べてどのように変わりましたか？



回答者の住んでいる地域の変化について、「経営規模を大きくする農家と、小さくする農家がはっきりしてきた」と回答した世帯が382戸（32%）であり、次いで「ほとんど変わらない」と回答した世帯が319戸（27%）、「耕作放棄地が増えてきた」と回答した世帯が167戸（14%）となりました。